

授業科目名： 中等美術科指導法Ⅱ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 喜久山 悟／栗山 裕至 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高校美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 美術科の授業を担当するために、必要な知識、技能、態度を獲得し育成することを目的とする。			
授業の概要 美術科教育の内容や教育方法について、社会状況との関係、異校種との連携・接続、教材・教具などの観点から多面的に学習を進めていく。試行実践も適宜行い、授業実践力の向上へつなげていく。			
授業計画 第1回：ガイダンス（本講義の趣旨と進行等について） 第2回：造形美術や諸芸術の時代状況と美術教育との関係（過去の事例および現在） 第3回：学校での美術教育と学校外での美術教育との関係（F.チゼックの実践例など） 第4回：表現学習指導における技能的支援のあり方について（ICT活用を含む） 第5回：小中連携・接続の観点から見た美術教育 第6回：小中連携・接続を念頭に置いた題材の試行実践 第7回：中高連携・接続の観点から見た美術教育 第8回：中高連携・接続を念頭に置いた題材の試行実践 第9回：デザイン学習における造形思考の探究（立体素材試行実践と解説） 第10回：デザイン学習における造形思考の探究（ペーパークラフト試行実践と解説） 第11回：デザイン学習の教育的意義と課題 第12回：表現学習（絵画、立体・空間表現）と材料・技法 第13回：表現学習（デザイン、工芸）と材料・技法 第14回：学習指導案の立案 第15回：模擬授業と振り返り 定期試験は実施しない			
テキスト 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 美術編（平成29年6月 文部科学省）			

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 芸術編（平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

講義レポート（100%）

授業科目名： 中等美術科指導法Ⅲ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 喜久山 悟／栗山 裕至 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 表現学習と鑑賞学習について、専門知識と授業技術を深める。			
授業の概要 前半では情報機器を活用した表現学習の授業開発を行う。後半では鑑賞学習の授業開発を中心に学修を進め、模擬授業を行う。これらを通じて授業方法の専門知識や授業手法の理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス（学習指導要領の解説を含む） 第2回：ICTを活用した授業開発について（先行実践事例の解説） 第3回：参考作例作成を想定した教材開発（テーマ・コンセプト立案） 第4回：参考作例作成を想定した教材開発（コマ撮りアニメ絵コンテ作成） 第5回：参考作例作成を想定した教材開発（パワーポイント画面作成） 第6回：参考作例作成を想定した教材開発（パワーポイント画面修正、仕上げ） 第7回：参考作例作成を想定した教材開発（各自作品上映、学習材としての有効性検討） 第8回：鑑賞学習の授業実践と教材開発について（先行実践事例の解説） 第9回：鑑賞学習の教材開発（鑑賞対象作品の選定、アートカードのテーマ設定等） 第10回：鑑賞学習の教材開発（鑑賞対象作品の資料作成、アートカードの作成） 第11回：鑑賞学習の授業立案（学習指導案作成） 第12回：鑑賞学習の授業立案（学習指導案作成、板書計画等） 第13回：模擬授業実施（美術作品鑑賞） 第14回：模擬授業実施（アートカードを用いた鑑賞） 第15回：まとめ 定期試験は実施しない			
テキスト 中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省） 中学校学習指導要領解説 美術編（平成29年6月、文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）			

高等学校学習指導要領解説 芸術編（平成30年7月、文部科学省）

参考書・参考資料等

授業時に適宜資料配布を行う

学生に対する評価

教材開発レポート（50%）、指導計画関連レポート（50%）

授業科目名： 中等美術科指導法Ⅳ 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 喜久山 悟／栗山 裕至 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教材及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 先行授業実践例の分析を通じて授業方法の専門的知識や技術を学ぶとともに、模擬授業実施を通して授業方法の専門的知識や技術をさらに深める。			
授業の概要 先行授業実践例に基づく授業研究を行うとともに情報機器の効果的活用を検討する。さらに、模擬授業へ向けた指導計画立案や教具作成等を行い、模擬授業を実施する。最終回のまとめにおいて、教育実習へ向けた課題整理を行う。			
授業計画 第1回：本演習の内容・進行のガイダンス 第2回：先行授業実践例（A表現）の相互検討と解説、意見交換 第3回：先行授業実践例（B鑑賞）の相互検討と解説、意見交換 第4回：附属学校園等での研究授業・公開授業記録映像の視聴、該当授業についての意見交換 第5回：先行授業実践例や附属学校園等の授業記録映像視聴を踏まえた、ICTの効果的活用の検討 第6回：学習指導要領の確認、模擬授業実践へ向けた課題整理 第7回：班編成と美術科題材選定、学習指導案立案 第8回：学習指導案立案と教具作成、参考作品試作 第9回：教具作成と参考作品の修正、情報機器活用の検討 第10回：教具やICTの効果の検討、学習指導案の修正 第11回：模擬授業Aの実施、相互評価、講評 第12回：模擬授業Bの実施、相互評価、講評 第13回：模擬授業Cの実施、相互評価、講評 第14回：模擬授業Dの実施、相互評価、講評 第15回：模擬授業まとめと総括、教育実習へ向けた課題整理 定期試験は実施しない			
テキスト 中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省） 中学校学習指導要領解説 美術編（平成29年6月、文部科学省）			

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 芸術編（平成30年7月、文部科学省）

参考書・参考資料等

中学校美術科教科書各種、高等学校美術教科書各種、授業時に適宜資料配布

学生に対する評価

模擬授業（70％）、レポート（30％）

授業科目名： 体づくり運動 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 未永 祐介／渡瀬 浩介 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>本授業のテーマは、中学校、高等学校における保健体育教員として、現代社会における生徒の身体・身体活動の問題を踏まえ、学校教育における体づくり運動の教育的意義や学習内容論等の知識や実践的指導力について学修することを目的としている。</p> <p>到達目標は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体づくり運動・多様な動きをつくる運動の目的、内容、方法について理解することができる。高めることができる。</li> <li>3. 体ほぐしの運動の目的、内容及びその系統的発展方法について理解し活用することができる。</li> <li>4. ICT活用によるコミュニケーション力と効果を高めることができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、中学校、高等学校における保健体育教員として、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領における体力の内容及びその高め方等について理解するとともに実践的指導力を高めることを目的に、履修者自らが主体となり、体づくり運動の目的、内容、方法について実践し、心と体が一体であること、仲間とのかかわり方について学ぶ授業である。加えて、ICTの活用によるコミュニケーションの広がりと効果を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：この授業の目的や概要について</p> <p>第2回：体ほぐしの運動①（歩行運動を通して①：個人から集団運動へ）</p> <p>第3回：体ほぐしの運動②（歩行運動を通して②：目を閉じて個人から集団運動へ）</p> <p>第4回：体ほぐしの運動③（走運動を通して①：個人から集団運動へ）</p> <p>第5回：体ほぐしの運動④（走運動を通して②：目を閉じて個人から集団運動へ）</p> <p>第6回：体ほぐしの運動③（跳躍運動を通して①：個人から集団運動へ）</p> <p>第7回：体ほぐしの運動④（跳躍運動を通して②：目を閉じて個人から集団運動へ）</p> <p>第8回：体の動きを高める運動①（ストレッチ、巧みな動きを高める運動①：縄を使って個人で）</p> <p>第9回：体の動きを高める運動②（ストレッチ、巧みな動きを高める運動②：縄を使って集団で）</p>			

第10回：体の動きを高める運動③（ストレッチ、巧みな動きを高める運動③）：ボールを使って個人で)

第11回：体の動きを高める運動④（ストレッチ、巧みな動きを高める運動④）：ボールを使って集団で)

第12回：体の動きを高める運動⑤（ストレッチ、巧みな動きを高める運動⑤）：縄とボールを組み合わせる集団で)

第13回：体の動きを高める運動⑥（ストレッチ、力強い動きを高める運動①）：個人で)

第14回：各グループオリジナルの体づくり運動内容の説明と発表①（1・2・3グループ）

第15回：各グループオリジナルの体づくり運動内容の説明と発表②（4・5グループ）及びまとめ  
定期試験は実施しない

#### テキスト

- ・ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示・文部科学省）
- ・ 中学校学習指導要領解説保健体育編（平成29年7月・文部科学省）
- ・ 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示・文部科学省）
- ・ 高等学校学習指導要領解説保健体育編（平成30年7月・文部科学省）

#### 参考書・参考資料等

- ・ 岡出美則/友添秀則/岩田靖（2021）「体育科教育学入門（三訂版）」大修館書店
- ※その他は講義中に適宜紹介する

#### 学生に対する評価

授業リフレクション（内容理解）30%、課題レポート30%、意欲（授業への取組）40%

授業科目名： 器械運動 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 末永 祐介／田口 晴康
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業の中では、学習する技そのものの動きのコツを身に付け、動き方を改善していくなど、動ける身体の獲得をめざす。習得した技を組み合わせで行なう、発表するなどにより達成感を味わう。将来の教員採用試験対策も行う。</p> <p>到達目標は以下の通りである。</p> <p>学習指導要領に示されている各種目の技の習得ができる。</p> <p>技の種類や体系、及び指導方法について理解できる。</p> <p>技の補助や安全性について理解できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>器械運動は、マット、鉄棒、平均台、とび箱などの器械、器具を使った「技」によって構成されている運動である。各運動種目では、自己の能力に応じて「技を習得する」「技が円滑にできる」ことをねらいとし、様々な運動課題の解決に取り組む学習指導が展開される。</p> <p>また、そこでの学習の対象となる運動は、非日常的驚異性と姿勢的簡潔性を特徴として、誰にでも有効で客観的な技術を持つ技が取り上げられる。特に、学習指導要領に提示されている技を中心に練習、習得していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、基礎技の確認</p> <p>第2回：マット運動の接転技（前転、後転、側転）</p> <p>第3回：マット運動の接転技（開脚・伸膝前転、倒立前転）</p> <p>第4回：マット運動の接転技（開脚・伸膝後転、後転倒立）</p> <p>第5回：マット運動の翻転技（頭はねおき、側方倒立回転、前方倒立回転とび）</p> <p>第6回：マット運動の組み合わせ技・連続技</p> <p>第7回：跳び箱の切り返し系の技（開脚とび）</p> <p>第8回：跳び箱の切り返し系の技（かかえ込み、屈身とび）</p> <p>第9回：跳び箱の回転系の技（前方倒立回転とび）</p> <p>第10回：鉄棒の支持系の技（逆上がり、後方支持回転）</p> <p>第11回：鉄棒の支持系の技（逆上がり、前方支持回転）</p>			

第12回：鉄棒の支持系の技（片足、両足かけ上がりおよび回転）

第13回：鉄棒の組み合わせおよび発展技

第14回：テストおよび発表会（マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動）

第15回：授業のまとめと反省・レポート提出

テキスト

必要に応じて資料を配布する

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説（平成29年） 高等学校学習指導要領解説（平成30年） 文部科学省

学生に対する評価

マット、とび箱、鉄棒の3種目で行った技の中からノルマの技を設定し、動きのコツを身に付け、動き方を改善できたかどうか、マット(30点)、とび箱(30点)、鉄棒(30点)でチェックして評価する。レポート提出(10点)。

授業科目名： 水泳 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大石 康晴・井福 裕俊／ 山津 幸司 担当形態： クラス分け・複数／単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 （中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
授業の到達目標及びテーマ 水泳指導の基本を身につけ、最終的には80分程度の連続泳ができるようになることを目指す。			
授業の概要 最初の3～4回は講義形式、残りの授業はプールでの実技形式で行う。水泳指導の基礎基本を学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の展開方法を含む） （1）指定された事項を調べ、自分の考えを発表できるようにまとめてくる 第2回：水泳・水中運動の意義：水泳の特性とねらい、水中運動の心身に及ぼす影響 （2）指定された事項を調べ、自分の考えを発表できるようにまとめてくる 第3回：安全管理：児童生徒の健康管理、施設・設備の安全管理、水泳指導の安全管理、救助法 （3）指定された事項を調べ、自分の考えを発表できるようにまとめてくる 第4回：学習のまとめと小テスト：水泳・水中運動の意義と安全管理の理解度把握 （4）指定された事項を調べ、自分の考えを発表できるようにまとめてくる 第5回：水慣れ、泳力テスト：速く泳ぐ能力の現状把握 （5）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。 第6回：クロール、平泳ぎ：バディシステム、伏し浮き、背浮き、け伸び、ビート版や浮き具の活用 （6）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。 第7回：クロール、平泳ぎ：クロールと平泳ぎのキックおよびプルの練習 （7）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。 第8回：クロール、平泳ぎ：キックとプルの統合と全習法、ターンの練習、リレー （8）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。 第9回：背泳ぎ、バタフライ：背泳ぎとバタフライのキックの練習 （9）授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。			

第10回：背泳ぎ、バタフライ：バタフライのプルの練習

(10) 授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。

第11回：背泳ぎ、バタフライ：背泳ぎのスタート練習、全体の一連動作、メドレーリレー

(11) 授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。

第12回：水中運動：アクアビクス、立ち泳ぎ

(12) 授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。

第13回：水中運動：水中でのレクリエーション、水球

(13) 授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。

第14回：水中運動：水中でのリラクゼーション、潜水

(14) 授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。

第15回：80分間連続泳：ゆっくり長く泳ぐ能力の確認

(15) 授業内容について整理しておくこと。体調を整えておくこと。

テキスト

・文部科学省、学校体育実技指導資料第4集「水泳指導の手引(三訂版)」(2014年3月)

参考書・参考資料等

・水泳指導教本：地域スポーツ指導者用

・日本水泳連盟、水泳指導教本改訂第2版 公認水泳指導員・水泳上級指導員用、大修館書店  
(2012年6月)

学生に対する評価

小テスト(30%)、学習への取組み状況(30%)、遠泳力テスト(40%)

授業科目名： 陸上競技 【シラバス共通科目 (佐大・熊大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 井福 裕俊／甲木 秀典 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科および教科の指導法に関する科目（中学校および高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 陸上競技の短距離種目、跳躍種目、投てき種目、中・長距離走種目の理論及び基本的な技術を習得し、技術を分析する能力を高め、学校現場において陸上競技の指導を行うことができるようになる。			
授業の概要 陸上競技の短距離種目、跳躍種目、投てき種目、中・長距離走種目の特性や科学的知識を理解し、基本的な技術を身につけ、自身の技術を分析することで、学校体育における陸上競技の指導法を身につける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業概要と陸上競技の特性について） 第2回：短距離走1：100m走の記録計測および動画撮影（Pre） 第3回：短距離走2：中間疾走（ピッチとストライド） 第4回：短距離走3：クラウチングスタート、クラウチングスタートから中間疾走 第5回：短距離走4：リレー（ルール、バトンパス） 第6回：短距離走5：100m走の記録計測および動画撮影（Post）および分析 障害走1：60mハードル走の記録計測および動画撮影（Pre） 第7回：障害走2：インターバル走とハードリング 第8回：障害走3：クラウチングスタート～1台目のハードリング 第9回：障害走4：60mハードル走の記録計測および動画撮影（Post）および分析 跳躍1：走り幅跳びの記録計測および動画撮影（Pre） 第10回：跳躍2：走り幅跳びの助走、踏切り、水平方向と鉛直方向への跳躍 第11回：跳躍3：空中姿勢（かがみ跳び、そり跳び、はさみ跳び）、着地 第12回：跳躍4：走り幅跳びの記録計測および動画撮影（Post）および分析 第13回：投てき：砲丸投げ（両手投げ、立ち投げ、突き出し、サイドステップ投法） 第14回：中長距離走：6分間走（ペース走、カルボーネン法による運動強度の設定） 第15回：陸上競技の用具と技術の変遷			
テキスト			

- ・ 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年 7月 文部科学省）
- ・ 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（平成30年 7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

- ・ 授業中に適宜資料等を配布する。
- ・ 陸上競技指導教本アンダー16・19 【初級編】 基礎から身につく陸上競技  
公益財団法人日本陸上競技連盟 編 大修館書店

学生に対する評価

レポート試験（100％）

授業科目名： ゴール型球技 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 末永 祐介、大石 康晴／ 坂元 康成、片桐 章光、 担当形態： クラス分け・複数／オムニ バス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体教科に関する専門的事項 ・体育実技		
授業の到達目標及びテーマ バasketボールの攻防に必要なフットワーク,パッシング,ドリブリング,シューティング,ボ ールキープなどボール・ハンドリングやボディ・コントロールに求められる基礎的個人スキ ルの習得と,コンビネーションを中心とした連携・チームプレイに必要な基礎的集団的スキ ルの習得を目指す。 本授業は、佐賀大学学士力2(2)に対応している			
授業の概要 ゴール型球技の代表的種目として、サッカー及びBasketボールを取り扱うが、本講義で はBasketボールを展開する。Basketボールの競技特性を理解し,個人的・集団的スキ ルの習得とチームプレイや戦術について学習し, また,発達段階に応じたスキル指導の内容や 方法等,指導方法,さらにルールや審判法についても理解を深める。			
授業計画 第1回： 個人的スキルの習得 (末永、大石／坂元 康成、片桐 章光) 次回までの課題：個人の各スキルの概要を整理しておくこと 第2回： 個人的・集団的スキルの習得 (末永、大石／片桐 章光) 次回までの課題：個人・集団の各スキルの概要を整理しておくこと 第3回： オフェンスにおける集団的スキルやチームプレイの習得 (末永、大石／片桐 章 光) 次回までの課題：オフェンスの個人・集団の各スキルと連携・組織プレーにつ いて整理しておくこと 第4回： ディフェンスにおける集団的スキルやチームプレイの習得 (末永、大石／片桐 章 光) 次回までの課題：ディフェンスの個人・集団の各スキルと連携・組織プレーに ついて整理しておくこと 第5回： オフェンスにおける連携・組織的技能とルール (末永、大石／片桐 章光) 次回までの課題：オフェンスにおけるルールと技術要素を整理しておくこと			

第6回：ディフェンスにおける連携・組織的技能とルール（末永、大石／片桐 章光）

次回までの課題：ディフェンスにおけるルールと技術要素を整理しておくこと

第7回：オフェンスの場面変化に応じた技術の内容と判断力の習得（末永、大石／片桐 章光）

次回までの課題：場面変化に応じた技術の内容と判断力について整理しておくこと

第8回：ディフェンスの場面変化に応じた技術の内容と判断力の習得（末永、大石／片桐 章光）

次回までの課題：場面変化に応じた技術の内容と判断力について整理しておくこと

第9回：チーム戦力、作戦の組み立て（オフェンス）（末永、大石／片桐 章光）

次回までの課題：戦術・作戦に必要なオフェンスの方法を整理しておくこと

第10回：チーム戦力、作戦の組み立て（ディフェンス）（末永、大石／片桐 章光）

次回までの課題：戦術・作戦に必要なディフェンスの方法を整理しておくこと

第11回：ゲーム分析の方法と戦術・作戦計画の立て方（オフェンス）（末永、大石／片桐 章光）

次回までの課題：ゲーム分析の方法とオフェンスの作戦計画について整理しておくこと

第12回：ゲーム分析の方法と戦術・作戦計画の立て方（ディフェンス）（末永、大石／片桐 章光）

次回までの課題：ゲーム分析の方法とディフェンスの作戦計画について整理しておくこと

第13回：総合的なゲームとチーム力の分析（末永、大石／片桐 章光）

次回までの課題：総合的なゲーム分析方法とチーム力分析方法について整理しておくこと

第14回：総合的なゲームの進め方と指導計画（末永、大石／片桐 章光）

次回までの課題：ゲームの進行と指導計画について整理しておくこと

第15回：ゲームの進行と審判法（末永、大石／片桐 章光）

次回までの課題：ゲームの進行と審判法について整理しておくこと

テキスト：必要に応じて資料を配布する

参考書・参考資料等：最新科学が教えるバスケットボールのオフェンスメソッド 桶谷大監修/ 小谷究著など、随時紹介する

学生に対する評価

授業内での取り組み、積極性、態度等を総合的に評価する。

具体的には技術点等学習目標の到達度を 60%、授業に望む態度・姿勢（40点）とする。

授業科目名： ネット型球技 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 坂本 将基／佐藤 広徳
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、バレーボールを用いてネット型球技を学習する。バレーボールの学習指導に必要なとなる個人技能（パス・レシーブ・サーブ・スパイク・ブロック）を習得し、模範しながら説明ができるようになること、また、作戦・戦術・審判・企画などについて学び、バレーボールの試合が運営できるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ネット型球技としてのバレーボールの技術構造，ルール，および練習方法などについて学習するとともに、試合を行うための審判・企画・運営等についても学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：バレーボールの成立ちや競技特性の理解</p> <p>第2回：個人技能の習得①（スタンディングでのスパイクの練習）</p> <p>第3回：個人技能の習得②（オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの練習）</p> <p>第4回：個人技能の習得③（対人レシーブの練習）</p> <p>第5回：集団技能の習得①（3人でのレシーブの練習）</p> <p>第6回：個人技能の習得④（サーブ・サーブレシーブの練習）</p> <p>第7回：個人技能の習得⑤（スパイク・ブロックの練習）</p> <p>第8回：集団技能の習得②（3人でのレシーブから攻撃への展開）</p> <p>第9回：集団技能の習得③（3人でのサーブレシーブから攻撃への展開）</p> <p>第10回：集団技能の習得④（簡易ルールによる導入ゲーム：チームとしての動きの理解）</p> <p>第11回：集団技能の習得⑤（簡易ルールによる導入ゲーム：ポジションの役割の理解）</p> <p>第12回：試合運営①（リーグ戦・審判の学習）</p> <p>第13回：試合運営②（リーグ戦・審判の学習）</p> <p>第14回：試合運営③（リーグ戦・審判の学習）</p> <p>第15回：個人技能のテスト・授業のまとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			

参考書・参考資料等

コーチングバレーボール(基礎編)：日本バレーボール協会（編集）・大修館書店

学生に対する評価

授業態度（主体的な参加態度・協力姿勢・マナーなど）、個人技能のテスト（パス・スパイク・サーブ）、ゲームの記録などを総合的に評価する。

授業科目名： ベースボール型球技 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校 保健体育） 選択科目（高等学校 保健体育）	単位数： 1単位	担当教員名： 井上 伸一 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 学校あるいは健康スポーツに関わる現場において、専門見地から運動事象の発生、修得、修正、合理化に関わり実践的に展開できるようにする。			
授業の概要 ベースボール型球技の全体構造や特性を理解させるとともに、ゲームのやり方、指導方法についても実習し、ルールの理解並びに審判法についても学習する。野球及びソフトボールにおける個人的技術を学習するとともに、ゲームの進め方、作戦の立て方等についても理解を深める。			
授業計画 1. オリエンテーション 2. キャッチボール、バットスイングの基本 3. トスバッティングの技術練習 4. ボールキャッチの基本 5. フリーバッティングの技術練習 6. 内野守備の基本動作 7. 外野守備の基本動作 8. ポジションごとの守備練習 9. ティーボールの簡易ゲーム 10. ティーボールのゲーム 11. ソフトボールのルールと簡易ゲーム 12. ソフトボールのゲーム 13. 野球のルールと簡易ゲーム 14. 野球のゲーム 15. まとめ 定期試験は実施しない			
テキスト 使用しない。適宜、資料を配付する。			
参考書・参考資料等 使用しない。授業中に、適宜、紹介する。			

学生に対する評価

実技試験50%，リフレクションレポート30%，意欲（授業への取組）20%

授業科目名： ダンス 【シラバス共通科目（ 熊大・佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 末永 祐介／坂下 玲子
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1) 多様なテーマから表したいイメージをとらえ、即興的に表現したり、作品を創作したりして踊ることができる。</p> <p>2) フォークダンスではそれぞれの踊り方の特徴を理解し、踊ることができる。</p> <p>3) リズム系ダンスの基本的なステップを習得しリズムの特徴を理解して踊ることができる。</p> <p>4) 友達やグループのよい表現や動きを認めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中学校におけるダンス授業に対応した内容を中心に、多様なテーマや課題を取り上げ、ダンスの理論と実技を学習する。授業のまとめとして、グループで作品を創作する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：授業の概要と進め方の説明、ダンスの歴史・種類等</p> <p>第2回：ダンス・ウォーミングアップの考え方と実際</p> <p>第3回：フォークダンス①：外国のフォークダンス</p> <p>第4回：フォークダンス②：外国のフォークダンスおよび日本の民謡</p> <p>第5回：創作ダンス①：ものを手がかりとして</p> <p>第6回：創作ダンス②：身近な生活や日常動作を手がかりとして</p> <p>第7回：創作ダンス③：対極の動きを手がかりとして</p> <p>第8回：創作ダンス④：多様な感じを手がかりとして</p> <p>第9回：創作ダンス⑤：群（集団）の動きを手がかりとして</p> <p>第10回：現代的なリズムのダンス①：ロック、サンバのリズムで</p> <p>第11回：現代的なリズムのダンス②：ヒップホップのリズムで</p> <p>第12回：作品創作①：作品の主題と構成</p> <p>第13回：作品創作②：主題に合った動きの変化と工夫</p> <p>第14回：作品創作③：動きの工夫と踊り込み</p> <p>第15回：発表と鑑賞、まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト			

適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

改訂版 明日からトライ ダンスの授業（全国ダンス・表現運動授業研究会編、大修館書店、2021）

学生に対する評価

授業への積極的参加度：各時間の発表等を含む（50％）、ノート及びレポート提出（30％）、グループ創作（20％）等総合的に判断する。

授業科目名： 柔道 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 坂本 将基/町田 正直
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 柔道の基本動作の理合いを理解する。</li> <li>2. 柔道の基本動作 (投技と受身) を習得する。</li> <li>3. 柔道の基本動作を使い約束乱取を行うことができる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>本授業は柔道の基本的な動作のメカニズム (理合) の理解とその動作 (投技と受身) の習得を目指して実際に柔道の稽古を行います。十分な基本動作の習得が確認された場合には、それを実戦 (乱取) の中で活用する</p>			
授業計画			
<p>第1回：柔道の成り立ち・服装</p> <p>第2回：柔道の基本動作 後受身と足技</p> <p>第3回：柔道の基本動作 前受身と足技</p> <p>第4回：柔道の基本動作 横受身と手技</p> <p>第5回：柔道の基本動作 前回受身と腰技</p> <p>第6回：柔道の基本動作の復習 単純な状況の中で</p> <p>第7回：柔道の基本動作の復習 実践に近い状況の中で</p> <p>第8回：柔道の基本動作の応用 足技に対する防御</p> <p>第9回：柔道の基本動作の応用 手技に対する防御</p> <p>第10回：柔道の基本動作の応用 単純な状況の中で</p> <p>第11回：柔道の基本動作の応用 実践に近い状況の中で</p> <p>第12回：全体復習と実践練習 (約束乱取・攻撃を中心に行う)</p> <p>第13回：全体復習と実践練習 (約束乱取・防御を中心に行う)</p> <p>第14回：全体復習と実践練習 (約束乱取・投げ技を中心に行う)</p> <p>第15回：全体復習と実践練習 (約束乱取・寝技を中心に行う)</p> <p>定期試験：実技試験</p>			
テキスト			
随時必要な資料などを配布する			
参考書・参考資料等			

近代柔道（月間）

柔道実技指導のヒント ISBN:978-4-8105-2117-7

学生に対する評価

リフレクションシート・・・到達目標 1. (40%)

実技試験・・・到達目標 2. 3. (60%)

授業科目名： 剣道 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校 保健体 育） 選択科目（高等学校 保健 体育）	単位数： 1単位	担当教員名： 吉谷 修 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的科目 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 日本的な運動文化として剣道の技やそれに伴う所作の意味を理解した上 で、剣道の実技や審判ができる。			
授業の概要 「木刀による剣道基本技稽古法」を学習し、そこで学習した技を基に防具をつけての剣 道運動の実技・審判法を実施する。			
授業計画 第1回：オリエンテーションー学校教育における剣道に関する基本的理解ー 第2回：木刀による剣道基本技稽古法（基本1、基本2） 第3回：木刀による剣道基本技稽古法（基本3、基本4） 第4回：木刀による剣道基本技稽古法（基本5、基本6） 第5回：木刀による剣道基本技稽古法（基本7、基本8） 第6回：木刀による剣道基本技稽古法（基本9と全体のまとめ） 第7回：剣道具の着装と剣道の基本的なルール 第8回：木刀による剣道基本技稽古法を用いた打突 第9回：踏み込み足を用いた基本技と切り返し 第10回：踏み込み足を用いた応用技 第11回：五角稽古①ーしかけ技を中心にー 第12回：五角稽古②ーしかけ技と応じ技を用いてー 第13回：試合稽古①ー試合の仕方を中心にー 第14回：試合稽古②ー審判法を中心にー 第15回：授業のまとめー剣道の文化的特性と課題ー 定期試験 実施しない			
テキスト 使用しない			
参考書・参考資料等 剣道試合・審判規則・細則（全日本剣道連盟）剣道試合運営の手引き（全日本剣道連盟 学生に対する評価 授業に対する取り組み・態度（40%）、実技課題の達成度（40%）、剣道			

の文化性の理解（20％）により評価する。

授業科目名： ヘルスプロモーション実 習 【独自科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 選択科目（中学校 保健体育） 選択科目（高等学校 保健体育）	単位数： 1単位	担当教員名： 井上 伸一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 健康の維持増進のために必要な知識を習得するとともに、健康のための運動指導の技術を学び、実践できるようにすることを目的とする。また健康に関する種々の測定方法について学ぶ。			
授業の概要 佐賀大学が地域貢献事業として開催している健康教室に参加し、地域住民への運動指導を通じて、コミュニケーション力、指導力、企画運営力等の実践力を身につける。それぞれの学生は自分の担当班の参加者にストレッチや筋力トレーニング等を指導するとともに、対象の体力に応じたトレーニングメニューを作成させ、運動指導の能力を身につけさせる。			
授業計画 1. オリエンテーション 2. 子どもに対する運動指導の基礎 3. 中高齢者に対する運動指導の基礎 4. ストレッチの方法 5. 筋力トレーニングの方法 6. 血圧等の測定方法 7. 骨密度等の測定方法 8. 健康教室に参加し、運動指導(ストレッチ) 9. 健康教室に参加し、運動指導(筋力トレーニング) 10. 健康教室に参加し、運動指導(筋力トレーニング) 11. 健康教室に参加し、運動指導(レクリエーション) 12. 健康教室に参加し、運動指導(歩行動作) 13. 健康教室に参加し、運動指導(リズムダンス) 14. 健康教室に参加し、運動指導(リズムダンス)キャッチボール、バットスイングの基本 15. まとめ 定期試験は実施しない			
テキスト 使用しない。適宜、資料を配付する。			
参考書・参考資料等 使用しない。授業中に、適宜、紹介する。			
学生に対する評価 毎回のリフレクションシート40%、レポート30%、意欲（授業への取組）30%			

授業科目名：野外活動 【独自科目（熊大）】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 井福 裕俊、坂本 将基 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 野外における活動の特性に応じた目的を理解し、その企画、運営、指導の為の資質と技術を 身につけることを目指す。			
授業の概要 体験型学習として夏季においてはキャンプおよび野外での活動体験を行う。冬季においては スノースポーツを体験する。			
授業計画 第1回：概要説明 第2回：林間実習（林間実習についてのオリエンテーション） 第3回：林間実習（テント設営） 第4回：林間実習（ロープワーク） 第5回：林間実習（野外調理の基礎） 第6回：林間実習（野外調理の応用） 第7回：林間実習（トレッキングの基礎） 第8回：林間実習（トレッキングの応用） 第9回：スノースポーツ実習（スノースポーツについてのオリエンテーション） 第10回：スノースポーツ実習（前足固定による推進滑走） 第11回：スノースポーツ実習（両脚固定のサイドスリップ） 第12回：スノースポーツ実習（バックサイドターンとフロントサイドターン） 第13回：スノースポーツ実習（緩斜面での連続ロングターン） 第14回：スノースポーツ実習（緩斜面での連続ショートターン） 第15回：総括			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 キャンプ論（加藤 文俊、慶應義塾大学出版会） JSBAスノーボード教程（日本スノーボード協会、山と溪谷社）			
学生に対する評価			

野外活動に関する技術の理解と修得（70%）、活動への取組（30%）

授業科目名： 運動学（バイオメカニズムを含む） 【共同科目（佐大）】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井上 伸一、市川 浩 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 学校、スポーツ、健康における身体運動の実践および指導において、人間がどのように運動を認識し、習得するかを理解することは重要である。本授業では実践的運動研究に基づいた運動学の概念や目的、基礎理論を学び、当たり前に行っていることを説明できる重要性を理解し、自らの運動実践や他者への指導への役立て方について検討する機会を持つ。			
授業の概要 実践的運動研究に基づいた運動学の概念や基礎理論について、授業回ごとにトピックを定め、講義形式で70分程度説明する。残りの時間を使いそのトピックに関する議論や演習を行う。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 ヒトの動きの原理 第3回 歩行動作のメカニズム 第4回 さまざまなスポーツ動作のメカニズム 第5回 スポーツにおける効率的な動き 第6回 運動学習の理論 第7回 機械と動物と人間の運動 第8回 運動の習得 第9回 形成位相論 第10回 身体知 第11回 動感図式 第12回 動感意識に基づいた指導構成 第13回 自己観察 第14回 運動の指導と指導上の措置 第15回 まとめ			
テキスト 資料を配布			

参考書・参考資料等
なし
学生に対する評価
期末テスト（60%）、レポート（40%）

授業科目名： 体育心理学 【共同科目（佐大） 】	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山津 幸司 担当形態： 単独
科 目	教科に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 本講義では、体育やスポーツ指導者として「競技スポーツ」「学校体育」「健康のための運動・スポーツ」の実践場面に心理学の知見を応用できるようになるための基礎の習得を目標とする。【学士力番号1(4)】			
授業の概要 運動・スポーツをより効果的、効率的かつ継続的に実践していくには、身体的側面のみならず心理学的な諸理論の理解が不可欠である。心理学の知見を応用できるようになるための基礎を教授する。共同科目のため開講形態はオンライン授業とする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（体育・スポーツの心理学とは） （1）本授業で学びたいことを考えてくる 第2回：運動技能の効果的な学習方法（1）：運動能力、運動技能、運動技術、運動学習 （2）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる 第3回：運動技能の効果的な学習方法（2）：フィードバック（FB）、心理的不応期、スキーマ理論 （3）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる 第4回：運動技能の効果的な学習方法（3）：運動学習の三段階説、FBの種類と機能、FB産出依存性 （4）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる 第5回：運動技能の効果的な学習方法（4）：文脈干渉効果、観察学習、メンタルプラクティス （5）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる 第6回：スポーツと外発的動機づけ：動機づけの機能、達成動機、自己決定理論 （6）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる 第7回：スポーツと内発的動機づけ：自己決定と有能さの認知、遊び （7）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる 第8回：運動好きと運動嫌いの心理学：運動有能感、苦痛回避動機、学習性無力感、原因帰属 （8）指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる			

第9回：目標に関連する心理学：目標設定、目標指向性

(9) 指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

第10回：覚醒水準とメンタルトレーニング（1）：逆U字型理論、あがり、さがり

(10) 指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

第11回：覚醒水準とメンタルトレーニング（2）：ヤーキーズ・ドッドソンの法則、イメージ

(11) 指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

第12回：健康づくりに役立つ運動心理学的側面について（1）：行動科学的アプローチ

(12) 指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

第13回：健康づくりに役立つ運動心理学的側面について（2）：運動行動のステージ理論

(13) 指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

第14回：運動・スポーツの心理的効果について（1）：不安、抑うつ、睡眠、運動依存

(14) 指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

第15回：運動・スポーツの心理的効果について（2）：学業成績、認知症、脳機能

(15) 指定された事項を調べ、発表できるようにまとめてくる

テキスト

幼稚園教育要領（文部科学省 平成29年3月告示）

幼稚園教育要領解説（文部科学省 平成30年）

参考書・参考資料等

運動指導の心理学、スポーツ心理学入門、新版 運動心理学入門、スポーツメンタルトレーニング教本 改訂増補版

学生に対する評価

保健体育科教員として「学校体育」「競技スポーツ」「健康のための運動・スポーツ」の実践場面に心理学の知見を応用できるようになるための基礎の習得しているかの確認の為に、小テスト（30%）、レポートなどの予習復習（30%）、期末テスト（40%）を行い評価する。

授業科目名： 体育原理 【シラバス共通科目 (佐大・熊大)】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坂本 将基／吉谷 修
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育 史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・体育とスポーツの概念について、自身の考えを述べることができる。 ・体育やスポーツの本質を考え、あるべき体育やスポーツの原理・原則について理解する。 ・保健体育教師やスポーツ指導者に求められる資質や倫理観を身に付ける。			
授業の概要 「体育・スポーツとは何か」という根源的な問いから、体育・スポーツに関する様々な事柄 について理解を深め、体育・スポーツのあるべき姿や進むべき方向について考える。			
授業計画 第1回：授業概要の説明 第2回：体育とスポーツ 第3回：身体からみた体育の可能性 第4回：体育・スポーツにおける競争 第5回：技術と技能 第6回：体育・スポーツ規範 第7回：高度化と大衆化 第8回：運動（スポーツ）文化 第9回：体育・スポーツと集団・組織 第10回：スポーツ産業 第11回：運動部活動の意義 第12回：スポーツ産業 第13回：スポーツ権 第14回：スポーツと政策 第15回：総括 定期試験：			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

教養としての体育原理（友添秀則編、大修館書店）

学生に対する評価

レポート試験（70%）、事前・事後学習の状況（30%）

授業科目名： 体育経営管理学 【シラバス共通科目 (熊大・佐大)】	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大石 康晴／坂元 康成 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 本講義では、体育やスポーツ指導者として「競技スポーツ」「学校体育」「健康のための運動・スポーツ」の実践場面にスポーツ経営学の知見を応用できるようになるための基礎の習得を目標とする。 なお本講義は佐賀大学学士力【1-3】、【2-2】に対応している。			
授業の概要 学習目標 学校体育や地域等のスポーツ振興に必要となる体育・スポーツ経営の基礎理論及び方法論についての理解を深める。本稿では、アメリカンスポーツマネジメントの現状を参考にしながら、体育・スポーツ事業の経営過程について学習する。			
授業計画 第1回：体育・スポーツ経営の必要性，目的，概念 第2回：運動者行動，体育事業，運動生活，体育経営体について 第3回：体育・スポーツ経営の発展経緯と領域特性について 第4回：体育・スポーツ事業の構成方法や体系について 第5回：体育・スポーツ施設の性格と整備について 第6回：保健体育審議会答申におけるスポーツ施設の整備指針について 第7回：スポーツクラブの性格論と経営課題について 第8回：地域における広域スポーツセンターの役割と機能 第9回：総合型地域スポーツクラブの意義と育成方法について 第10回：経営機能とマネジメントサイクルについて 第11回：経営計画の意義，分類，立て方について 第12回：組織成員の動機づけとリーダーシップについて 第13回：学校における体育・スポーツ経営の諸課題 第14回：アメリカンスポーツから観るスポーツマネジメントの将来的展望 第15回：まとめおよびレポート			
テキスト			

なし
参考書・参考資料等 「スポーツマネジメント」ボニーL・パークハウス 大修館書店 「体育経営管理学講義」宇土正彦、八代勉、中村平編著 大修館書店 「スポーツ経営学」山下秋二、畑攻、富田幸博編 大修館書店
学生に対する評価 体育・スポーツ経営に関する基礎理論の理解度や事業特性，経営の進め方に関する様々な具体的諸課題に対するレポート（30点）及び最終レポート（50点）をもって評価とする。また受講態度や授業への貢献度等（20点）を総合的に判断し判定する。